



ニューヨーク補習授業校だより

絆・きずな

令和元（2019）年

5月4日発行

第5号

文責（校長）片山 隆

夢のふくらむ学校

「令和」時代のスタートです。気持ちも新たに自分の夢に向かって！！

5月になりました。日本では新天皇の即位と共に令和の世がスタートしました。ネットのストリーミングで「即位の儀」の中継を見ていましたが、30年前、自粛ムードで幕を開けた平成とは大きく違って、天皇の退位そして新天皇即位という、歴史的な瞬間に立ち会う貴重な機会となりました。

このような新しい時代の幕が開かれようとする瞬間を、日本国内ではなく海外から見つめることも、貴重な体験というほかはありません。補習校に通うお子さん達には、「元号」や「天皇制」についての知識理解は個人差が大きいかと思えます。「元号」そのものを知らないお子さんもいるかもしれませんね。どうか、ご家庭でも折に触れて元号や天皇制について、お子さん達と会話を重ねてくださるようお願いいたします。

あるテレビ番組の中で、タレント・司会者のタモリさんが、「西暦というものがずっと（続く）本のページ数だとすれば、元号というのは日本だけが持っている『章』。その章があるから（時代の）切り替えができますよね。」と発言されたそうです。なるほど、上手な分かりやすいたとえ方だと思いました。

日本語はもちろんですが、日本文化、日本そのものを伝え、知識として持たせ、できれば体験させることも必要です。補習校では、保護者会のご協力を得ながら季節行事等を行います。ご家庭でも折に触れて学校での体験が深まるような言葉掛けを是非お願いいたします。ちなみに、5月5日は日本ではこどもの日です。W校では、現地校のポールを借りて鯉のぼりを揚げています。現在、鯉のぼりの歌は大きく2種類知られています。一般的には「屋根より高い こいのぼり〜♪」の歌が子どもたちにも歌いやすいのですが、「**麓の波と 雲の波♪**」というもう一つの歌も、歌詞は少し難しいながらも忘れがたい歌です。親子で、二つの歌についてインターネット等で調べてみてはいかがでしょうか。歌詞はもちろん音声や画像もたくさん紹介されています。



風に泳ぐW校の鯉のぼり

人生を川の流れにたとえると、風に乗って優雅に泳ぐ鯉のぼりのように、補習校の子どもたちも力強く流れに向かって泳いでいってほしいと思わずにはられません。川の中では時には大きな波や逆流、早い瀬、そして外敵に遭遇することも予想されます。そこで、自分の強みを活かして力強く泳ぎ抜いていってくると信じます。現地校と補習校という2足のわらじを履くことを選択した子どもたちは、学習指導要領が目指す「生きる力」そのものを日々の生活の中で体得しているのです。

ニューヨークで生活し、学び、得たことをもとに、自分の夢に向かってたくましく泳いでゆく子どもたちに大きなエールを送ります。鯉のぼりには、お父さん鯉とお母さん鯉があるそうですが、子どもの鯉が着々と親離れの準備をしているように見えるのは私だけでしょうか。

重要な連絡

5月9日（木）午前
本校の緊急連絡電話システム「Call-em-All」の試験送信を行います。登録電話に着信があるか、確認をお願いします。不具合があれば補習校事務所までご連絡ください。

第40回海外子女文芸作品コンクールに是非応募しましょう！！

このコンクールは、日本語の力を存分に発揮すると同時に、異文化共存の中心地アメリカで暮らす自分の思いや考え、体験を世界中の友達と共有できるまたとないチャンスです。一人1点を目標に、制限の範囲内でできるだけたくさん応募しましょう。

保護者の皆様におかれましては、**6月15日の締め切り日**までに、財団のホームページ

<https://www.joes.or.jp/kojin/bungei/detail/1>

で応募の詳細をよくご確認の上、**お子さんの作品応募にお声かけ**をよろしくお願い申し上げます。